



中野市事業継続給付金事業を ご活用ください

☎ 営業推進課 ☎ (22)2111(内線272)

新型コロナウイルス感染拡大の影響により事業収入が減少したものの、国の持続化給付金の対象とならない中小企業者や農業者などを対象に、最大10万円を給付します。

給付の対象となる方

市内に主たる事業所を有する中小企業者や、市内に住所及び事業所などを有し営農している方のうち、いずれかの給付条件に該当する方（国の持続化給付金の給付要件に該当する方は除く）

給付条件（主なもの）

- ・2020年1月～12月までの期間のうち、前年同月と比較して事業収入が30%以上50%未満の範囲内で減少した月がある
- ・2020年1月～12月までのいずれかの月を含む事業年度と、当該事業年度の直近の事業年度を比較して、年間事業収入が30%以上50%未満の範囲で減少している

給付金額

1事業者につき10万円（1回限り）

※算定した事業収入の減少額が10万円に満たないときは、その額



給付条件・申請方法など詳しくは、
市公式ホームページをご確認ください。

ページ

03 キラリ★中野のチカラ

特集

04 保育の取り組み
0～2歳に安心の子育て

09 信州なかの日和 /
市長のわくわくレポート

10 市民満足度調査の結果公表

12 市政功労者善行者表彰 /
動画コンテスト応募作品募集

13 市民会館リノベーション基本設計

14 中野市の市名変更に関する調査報告

16 生き生き！健康メモ / 保健だより

17 市民リレー元気の輪 / シニア情報

18 子育て案内

19 子育て支援センター行事予定 /
わが家のアイドル

20 まちかどトピックス

22 暮らしの情報掲示板

27 交差点

28 文化なかの

30 図書館情報

31 博物館だより

32 夢 / 広報クイズ

※掲載している行事や講座などは、中止・延期することがあります。詳しくは公式ホームページなどご確認ください。

今月の表紙

今回の特集は「保育の取り組み 0～2歳に安心の子育て」。市の取り組みや、制度の解説、市内の私立の保育施設をご紹介します。表紙の写真は、保育施設で子供たちが元気に遊んでいる様子を撮影する中で、カメラに興味を示してくれた瞬間を撮影したものです。

(撮影場所：中野みらいく保育園)



人口の動き

面積：112.18km²

人口：42,131人 (+11)

男：20,406人 (+10)

女：21,725人 (+1)

世帯数：15,970戸 (+26)

【2020年10月1日現在】

() は前月比。

2015年国勢調査を基に推計。

10言語翻訳・読み上げ機能で
広報なかのをもっと身近に。

カタログポケット



中野市議会

令和2年12月定例会の会期日程（予定）
11月30日(月)～12月15日(火)
市政一般質問
12月7日(月)、8日(火)、9日(水)



地域の未来を照らすみなさんを紹介します。

キラリ★中野のチカラ

No. 83

◀このタイトルも中川千恵子さんが制作しました



制作した広報なかの表紙イラスト

絵を描くと誰かに喜んでもらえるので
やめられないですね

-Profile- なかがわ ちえこ

埼玉県越谷市出身。日本大学芸術学部デザイン学科を卒業後、2001年に中野市へ移住した。夫は木工作家の中川岳二さん。デザイン会社などへ勤務後、現在は個人でイラストレーターとして活動し、花王(株)の洗剤や子ども用オムツのイラストの一部などを手掛ける。また、広報なかの「暮らしの情報掲示板」イラストや、18年5月号の表紙イラストも制作し、人気を博している。現在も、作品などを通じて中野市の魅力を発信している。



▲広報なかので使用しているイラストの原画など



▲子ども用オムツのイラスト

イラストレーター

中川 千恵子



▲フェイスブック



▲インスタグラム

「現在は、作品に自分らしさを表現できるようになり、どんどん制作意欲が湧いてきていて、目に映るものすべてを作品にするつもりで制作に取り組んでいます。その他の仕事として、東京都内の企業製品のイラストをメールのやり取りのみで制作しています。相手の希望するイメージをくみ取りながら作業するため、難しい部分もありますが、やりがいを感じられます。イラストレーターを希望する方に、自宅に居ながら、こんな働き方もできるんだということを知ってほしいですね。」

「いつか、中野市をテーマにしたイラストを、まとめて発表してみたいです。また、難しいかもしれませんが、市内の農産物を題材に作品を制作して、農産物の魅力や、生産者の思いを作品を通じて日本中に発信することができたらいいなと考えています。」

2018年に、広報なかの5月号の表紙のため、豊田地域を取材しながら、特色をまとめたイラストを制作しました。それがきっかけで、地域の良いところを自分で発見して、絵にすることがとても楽しいと感じるようになりました。私の現在のスタイルにつながる転機として、自分なりの描き方・自分らしさを大切にしています。」

小さい頃から、家族で美術館に行ったり、設計士の父親が仕事で使った図面の裏に絵を描いたり、芸術と触れる機会が多かったという中川さん。絵を描くことは昔から今までずっと好きだったと話してくれた。